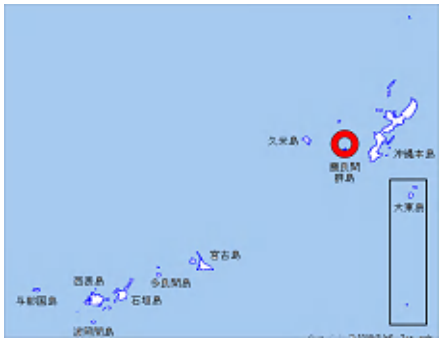
# 野村盛明さん

1919(大正8)年1月11日生まれ




陸軍
所属　海上挺進第1戦隊基地第1大隊
兵科　衛生兵

戦地　座間味島

**●1944(昭和19)年9月10日　座間味島に上陸**

地上戦闘する部隊じゃない。ボートに乗ってさ、17歳から20歳まで、百人いた。爆雷を積んで行ってアメリカの輸送船を、1艇で1艦をやっつける。百艇が入るように隠す穴をひたすら掘った。基地第1大隊は穴掘り部隊。それから特攻艇の出撃の時にボートを海岸まで運び出す役、そのために朝鮮の軍夫が300人来た。

**●1945(昭和20)年3月23～25日　空襲と艦砲射撃**

グラマンの飛行機が来てガソリンを撒くんですよ。ガソリンの雨が降って来る。いっぱい撒いといて、曳光弾(えいこうだん)をぼーんぼーんと入れると、燃えちゃう。島が全部燃えちゃった。ぼうぼうぼうぼう。我々は防空壕掘って潜ってた。船はバンバンバンバン殆どやられて、一艇も出撃していない。我々は何のためにここに行ったか分からない。

**●1945(昭和20)年3月26日　座間味島に米軍上陸**

米軍の船が来て上陸してきて、かなりの人数が上がって来て、どんどん逃げるだけ。

米軍が上陸したのは300～400だと思うよ。特攻隊の連中が可哀相だったのは将校が若いでしょ、張り切っちゃってさ。17歳から20歳のを連れて、米軍の陣地に、武器もないんだよ。ピストルと軍刀しかないんだよ。それで切り込みに行っちゃう。米軍の陣地からバンバンバンバン撃たれて、死んじゃってるんだ。

**住民は**洞窟の中に潜っちゃった。戦争中はほとんど没交渉。彼らが集団自決したっていうのは僕は知らないんだ。戦争になってからは殆ど接触してない。僕らは僕らで暮らしてたから。後で集団自決をやったと聞いてビックリして。

山の近くで敵の総攻撃をくって、ぼんぼこぼんぼこやられてね。おい動くなよ、動くと分かるから動くなって言って、ぴったりとくっついていた。そしたら左側にいた男がアメリカ兵に見られているっていうんで、ずるずるずるっと下りようとした。迫撃砲がどーんとやって来て、彼はおなかやられちゃった。腸はみだしちゃったから駄目だよ。僕は左腕をやられて、迫撃砲の破片が当って、血がばあーと吹き上がったから自分で三角巾で止血して。

その時に部隊長は膝をやられちゃった。将校集まって夜明かしでどうするって。明日米軍が来るから総攻撃をやって全員自決しようかという話になってるぞって軍医が出て来て言うんだよ。冗談じゃねえって言うの。将校連中集まってああだこうだと決まらないでしょ。死に急ぐことはない、逃げるところへ逃げて、立て直して、また戦闘やるっていうことにして、何も自分たちだけで自爆することはないんだ、軍医にはそう言って、翌日また移動していった。

**●部隊長が捕虜になる**

食糧探しに夕方歩いて行ったら二人連れに会ったんだよ。薄暗かったから友軍だと思ったら、撃たれて、飛び込んで真っ直ぐ自分のいる所に逃げてね、後でまずかったなと思ったんだ。何日かしたら米軍が来ますよ、移動した方がいいって。部隊長怪我してるでしょ。俺はいいや、もうって。僕ら危ないから、治療にはじゃあ毎日来ますよ、移動しますからって、明け方移動して。朝になったら部隊長のいた部落でもの凄い銃撃音がして部隊長が捕虜になった。そしたら朝鮮の慰安婦と一緒だったんだ、部隊長はな。専属にいるんだ。

**慰安婦は**6人いたかな。みんな顔は綺麗で、人もいい人だった(注:衛生兵で管理する立場にあった)。敵が上陸した時には僕らと行動をともにしたんだからね。I am Korea.と言って米軍の方へ行きなさい、あなたを米軍は殺すことはないんだからって言ったんだけど、彼女ら「嫌です」って言うんだ。そのうち敵襲でバラバラになっちゃったけど。

そのうち捕虜になっている人たちが部隊長の投降勧告の手紙を持って我々のところに来るんですよ。まあいいやって言ってね、ああそうですかって下りていく気もないんだよね。

**●1945(昭和20)年6月8日　投降**

衛生兵の1人がアメリカの兵隊と真昼間に会っちゃった。しょうがないから「撃て」って(胸を指差す)。そしたらアメリカの若い兵隊だった、Get out Get out　って(追い払う仕草)。「班長、今日俺は怖い思いしたよ」って。そしたら2～3日経ったら「悪いけど私はもう米軍の方に行きます。私は死ぬのはイヤです」って言うんだよ。「折角、今生き残ったんだから」って。「いいだろう」って言ったの。本人は手ぬぐいを谷川の水で洗ってね、白旗作って、「お世話になりました」って下りてっちゃった。

逃げて歩いて頑張ってたんだけどさ。その衛生兵が我々を助けるって言うんで、迎えに来ましたって、アメリカの兵隊連れて来ちゃうんだもん。じゃあしょうがねえや、下りようって言って。怪我したやつを連れて歩いていて、「T、お前も下りるんだぞって」言って僕が彼を抱えてさ、山を下りて行った。途中から彼は僕の手を振り解いて、「班長お世話になりました、ごめんなさい」って言ってば一っとまた山の中に逃げちゃった。それから終戦後1年山の中に入っていた。

(取材日:2011年8月13日)